

※方向性(分類)について
 A:事業完了(平成26年度以前に事業が完了したもの)
 B:事業継続(平成27年度以降も継続して事業を実施するもの)
 C:事業規模拡大(Bに該当する事業のうち、予算額等を拡大して実施するもの)
 D:事業縮小(Bに該当する事業のうち、予算額等を縮小して実施するもの)
 E:事業実施予定(平成27年度に事業を開始する予定のもの)
 F:検討中(事業未着手)

柱	項目	具体的な取組	事業名	事業概要	方向性分類	平成26年度実績	平成27年度計画	実施主体
1 学生が学ぶ環境の充実(リーディング施策)	(1) 「量から質へ」単位互換科目の魅力の向上	ア 京都だからこそ提供できる特色ある単位互換科目の開発	単位互換制度	他大学の科目を履修し、それを所属大学の単位として認定する。	B	世界文化遺産である「古都京都の文化財」を学びのフィールドとする「京都世界遺産PBL科目」の構想を検討した。	「京都世界遺産PBL科目」を8大学が開講し、単位互換生34名を含む85名の受講者を得た。	大学コンソーシアム京都
		イ 加盟大学による、より特色のある魅力的な単位互換科目の提供		(再掲)リ1-(1)-ア	B	特色のある魅力的な科目「プラザ推奨科目」を提供する大学への補助金を利用しやすいものとする。ことで、「プラザ推奨科目」の提供数を増加させることを目的とし、補助金の支払い内容及び支払い基準の見直しの検討を行った。	特色のある魅力的な科目「プラザ推奨科目」の定義や、「プラザ推奨科目」を提供する大学への補助金の支給条件等の見直しを行い、新たな定義・補助金制度のもと、各大学へ「プラザ推奨科目」の提供依頼を行う。(新たな定義・補助金制度については、平成28年度開講分より適用予定)	大学コンソーシアム京都
		ウ 単位互換科目受講後の評価システムの検討		(再掲)リ1-(1)-ア	B	これまでは紙媒体で受講アンケートを行っていたが、より多くの声を集約できるようにWEBアンケートを導入した。	平成26年度実施のアンケートを継続して実施する。	大学コンソーシアム京都
		エ 学生などの評価に基づく単位互換科目の改善の仕組みづくり		(再掲)リ1-(1)-ア	B	より魅力的な単位後科目となるよう、実施した学生アンケートの集計結果を各大学へフィードバックした。	引き続き、学生アンケートの集計結果を各大学へフィードバックする。	大学コンソーシアム京都
	(2) 「景観と機能の調和」大学施設整備の支援	ア 市有地活用や民有地情報の提供による大学施設の展開・立地の推進	大学施設整備支援事業	大学からの施設整備等についての相談を受け、大学が行う施設整備に技術的な助言等を行うとともに、施設整備に必要な各種手続き等が円滑に進むよう関係各課と調整を行うなど、施設整備の支援・誘導を行う。	B	・山ノ内浄水場跡地における京都学園大学京都太秦キャンパスの開設に向けて支援した(平成27年4月に開設)。	・各大学からの相談に応じて、市有地活用の提案や民有地情報の提供を行い、大学施設の展開・立地を推進する。	総合企画局
		イ ワンストップ窓口として、施設構想の段階から整備終了までの一貫した迅速な支援		(再掲)リ1-(2)-ア	B	・大学が行う施設整備について、関係者と調整を行うなど積極的な支援を実施した。	・大学が行う施設整備について、関係者と調整を行うなど積極的な支援を実施する。	総合企画局
		ウ 大学による各種手続きが更に円滑に進むよう、施設整備に関する法令の概要や制度の運用方針などを取りまとめた「京都市大学施設整備支援・誘導のためのガイドプラン」の改訂		(再掲)リ1-(2)-ア	B	・「京都市大学施設整備支援・誘導のためのガイドプラン」の見直しに向けて検討した。	・「京都市大学施設整備支援・誘導のためのガイドプラン」を見直す(補助リーフレットの作成)。	総合企画局
	「安心して安全に学べる京都」の充実	① 学生の安心・安全に対する意識を高めるための啓発	安心・安全な学生生活を送るためのハンドブックの作成	京都で学ぶ大学生が安心・安全な学生生活を送れるよう、京都府警察との連携のもと、防災、防犯、消費生活、自転車利用マナーなど、日常生活や災害時に気を付けるべきポイントを幅広く掲載したハンドブックを作成する。	A	冊子を5,000部、電子ブックへアクセスできるQRコード等が印刷された啓発カードを10,000部発行し、京都府大学安全・安心推進協議会加盟校をはじめ各所に配布し啓発に努めた。	—	総合企画局
		② 災害時における学生の安全の向上と学生の力を活用した支援活動の展開	市内大規模事業所における帰宅困難者対策の推進	「京都市事業所帰宅困難者対策指針」に基づき、大学を含む市内大規模事業所における大規模災害に備えた安全対策や非常用物資の備蓄等の帰宅困難者対策を推進する。	B	大学を含む市内大規模事業所における帰宅困難者対策の推進が図られるよう、年間を通して指導を継続するとともに、8月には、「事業所帰宅困難者対策ネットワーク研修会」を開催し、帰宅困難者対策に係る情報共有を図った。	大学を含む市内大規模事業所に対する指導を継続するとともに、研修会を開催し、事業所における帰宅困難者対策の充実を図る。	消防局
		③ 学生が犯罪・交通費外・消費者トラブルに遭わない環境づくり		(再掲)推1-(1)-①	A	冊子を5,000部、電子ブックへアクセスできるQRコード等が印刷された啓発カードを10,000部発行し、京都府大学安全・安心推進協議会加盟校をはじめ各所に配布し啓発に努めた。	—	総合企画局

柱	項目	具体的な取組	事業名	事業概要	方向性分類	平成26年度実績	平成27年度計画	実施主体			
1	(1)	④	障害のある学生など多くの人が学ぶことのできる環境づくり	みやこユニバーサルデザインアドバイザーの派遣	ユニバーサルデザインの考え方を採り入れ、実践しようとする各種団体、学校、企業等に対し、必要な助言や支援を行うことにより、様々な分野や地域における主体的なユニバーサルデザインの取組を促進する。	B	アドバイザー派遣(通年) 5回実施(実施箇所: 4箇所)	引き続き実施する。	保健福祉局		
				障害者移動支援事業	単独で外出が困難な障害のある学生への通学支援を行う。	B	社会生活上必要不可欠な外出及び余暇活動等の社会参加のための外出(学校教育法第1条に規定する大学(国、地方公共団体又は学校法人が設置する大学又は短期大学)又は同法第124条に規定する専修学校(専門課程及び一般課程に限る。))への通学を含む移動支援事業を実施した。 ○支給決定者数(平成27年3月末時点) 移動支援身体あり 2,731名 移動支援身体なし 1,927名 ○実利用者数 3,591名	引き続き、社会生活上必要不可欠な外出及び余暇活動等の社会参加のための外出(学校教育法第1条に規定する大学(国、地方公共団体又は学校法人が設置する大学又は短期大学)又は同法第124条に規定する専修学校(専門課程及び一般課程に限る。))への通学を含む移動支援を行う。	保健福祉局		
	(2)	①	学生が京都の魅力にふれる機会の充実	Student Days	元離宮二条城、京都市美術館、無隣庵など京都の文化施設等への学生の無料で招待する「Student Days(学生証の提示で京都の文化施設へ無料招待)」を実施する。	B	・元離宮二条城、京都市美術館、無隣庵、動物園などにおいて、京都学生祭典本祭を含む4日間(10月10日(金)～13日(月・祝))に、また、大谷大学博物館においては10月10日(金)～18日(土)に、「Student Days」として京都の文化施設への学生の無料招待を実施した。(合計1,783名) ・京都国立博物館や京都市内大学の関連施設等の対象施設を新たに追加し、23施設で実施。	・10月9日(金)～12日(月・祝)の4日間に実施予定。 ・対象施設を拡大して実施する予定。	総合企画局		
				キャンパス文化パートナーズ制度	市域の大学と連携し、学生が京都の多彩な文化に触れ、体験する機会を提供するとともに、そのための経済的な負担の軽減を図る。	B	主要施設(美術館、動物園、二条城、無隣庵)利用者数: 5, 279名	引き続き実施する。	文化市民局		
				京都・和の文化体験の日	日本文化の真髄である京都の文化芸術を次の世代にしっかりと伝えていくため、大学生をはじめとする若者が「和の文化」に触れ、体験し、伝統産業に親しむ機会を提供する。	B	平成27年2月14日(土)に祇園甲部歌舞練場等で開催し、参加者数は595名のうち168名が大学生・高校生(無料招待)。	引き続き実施する。	文化市民局		
				②	学生の意見吸収システムの構築		F		今後検討する。	総合企画局	
				③	学生が地域の一員として暮らせる環境づくり	きょうと地域力アップ貢献事業者等表彰	自治会・町内会等を中心とする多様な主体の連携による地域コミュニティ活性化への取組を一層推進することを目的に、自治会・町内会等の地域団体が主体となって取り組む地域活動に関して、これと連携・協力し、地域力の向上に貢献している事業者、NPO法人、大学等を顕彰し、自治会・町内会等を中心とする多様な主体の連携による地域コミュニティ活性化への取組を一層推進する。	B	・表彰対象者を募集し、申請・推薦のあった23団体(うち4大学)を表彰した。	表彰対象者を募集し、表彰式を実施する。	文化市民局
				学生が学ぶ環境の充実(推進施策)							

柱	項目	具体的な取組	事業名	事業概要	方向性 分類	平成26年度実績	平成27年度計画	実施主体	
	(3)	大学経営・運営の支援	① 京都FD・SDプログラムの充実	地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立	大学コンソーシアム京都が実施する「FDフォーラム」や「FDセミナー」などイベント型、交流型事業を土台としながら、大学間連携によって具体的で内実のある、また京都で学べることを活かした教育を実施できるFDプログラムの開発・実施を推進する。	B	FD事業では、FDフォーラム企画検討委員会のもと、京都FD執行部塾、新任教員FD合同研修(年2回)、大学教育パワーアップセミナー(年2回程度)、高等教育イベントNAVI「教まちや」の企画、運営を行った。一方で、FDフォーラムは同志社大学今出川校地にて予定していたとおり2日間の日程を無事に終了し、参加者は787名となった。 SD事業にあつては、大学職員共同研修の実施。(全プログラム参加者数135人)SDワークショップを計3回実施。(参加者数 延べ51人)SDフォーラムの実施。テーマ「実践知の獲得と自律的な成長: 批判的思考の役割」(参加者数 135人)	FD事業では、FDフォーラム企画検討委員会の事業の柱をマイクロ、マクロと2つに分け、既存の事業を中心にそれぞれが担当するが、より有機的な取り組みが可能な展開を行う。FDフォーラム事業では今後、アンケートの分析を進めニーズの把握につとめるが、人気の分科会への申込みができないなど、改善点はあり今年度開催に向け内容を練ることになる。 SD事業にあつては、FD事業同様、高等教育の質保証の観点から重要な課題であり、大学職員共同研修、SDワークショップ、SDフォーラムを実施する。また、第4ステージプランにおいて、休止中の「大学アドミニストレータ研修」再開に向けた検討の必要性が示されたことを受け、2014年度にプログラムを再開発した。2015年度から「SDゼミナール」として、計7回の講座と公開プレゼンテーションを柱とした企画を実施する。スケールメリットを生かして、スキルアップ、知識の習得および人的交流も積極的に図っていく。	大学コンソーシアム京都
			② 大学への寄付の増進	大学への寄付の増進	平成20年度税制改正に基づき、国立大学法人、公立大学法人、学校法人等に対する寄付金を京都市の個人市民税の寄付金控除の対象となる寄付金として指定(※)する仕組みを導入することにより、京都の大学に対する寄付の増進を図り、民間からの大学支援を促進するもの。 ※ 寄付金を受領する団体からの申請に基づき、所得税の寄付金控除の対象となる寄付金のうち、市民の福祉の増進に寄与する寄付金であると認められるものを指定。	B	26年度中については、大学を有する学校法人からの申請はなかった。(ただし、平成24年度までに既に17法人を認定済。)	引き続き実施する。	行財政局
			③ 環境配慮型経営に取り組む大学への支援	大学の自立分散型の再生可能エネルギー設備の導入支援	持続可能な低炭素・エネルギー社会の実現に向けた取組を進めることが、時代の要請に応え、環境に配慮した大学としての価値を高めるものであるとの認識のもと、大学で使用される電気・ガスなどのエネルギーの低減を図る省エネルギーや自立分散型の再生可能エネルギー設備導入に積極的に取り組む大学を支援する。	B	民生業務部門全般への「省エネ・節電対策」の普及を図る「BEMS普及コンソーシアム京都」を設立し、NPO・有識者・京都府及び、各種関係団体を会員として、エネルギー使用量の削減に向けた調査・研究に取り組んだ。 事業者排出量削減計画書制度の特定事業者である大学への訪問調査による省エネ取組の助言 2校 事業者排出量削減計画書制度における特定事業者である大学の評価:S:2, A:7, B:3, C:0 S事業者表彰:京都大学, 佛教大学(佛教教育学園)	事業者排出量削減計画書制度の特定事業者向けの省エネ対策セミナーの実施(7月)	環境政策局
	(4)	多様な大学・学生生活拠点の活用・設置の促進	① キャンパスプラザ京都の利用促進	大学のまち交流センター管理運営	大学における学術研究の成果、その他の知的資産を活用することにより、豊かな地域社会の形成に資するため、大学相互の間及び大学と産業界、地域社会等との間の連携・交流を促進する活動等に供する。	B	これまで稼働率が高く、予約がとりにくい状況にあった演習室を1室整備し、利便性を向上させた。また、指定管理者のウェブサイトのリニューアルし、施設概要をよりわかりやすくし、アクセシビリティの向上に努めた。	・第5演習室の運用開始 ・AV機器の全面更新により最新鋭の設備を導入	総合企画局
			② 大学サテライトなどの設置支援		(再掲)リ1-(2)-ア	B	・市有地活用の提案, 民有地・空き家の情報提供等を実施。	・各大学からの相談に応じて、関係者との調整や市有地活用の提案, 民有地・空き家の情報提供等を行い、大学施設の展開・立地を推進する。	総合企画局
				留学生PRチーム設置	京都で学ぶ現役留学生で構成するPRチームを創設し、出身国等における日本留学関連の情報収集, 京都の留学情報の現地向け発信を行う。	E	—	参加大学を通じて3ヶ国(東アジア圏, 東南アジア圏, 欧米圏)からそれぞれ数名の留学生を公募し, 委嘱	総合企画局

柱	項目	具体的な取組	事業名	事業概要	方向性分類	平成26年度実績	平成27年度計画	実施主体	
2 大学・学生の国際化 (リーディング施策)	(1) 「京都を知らう」留学生誘致に向けた海外への広報	ア	京都で学ぶ留学生ならではの視点で「大学のまち京都」の魅力を伝え、留学生誘致につなげるPR映像の制作・発信	留学生誘致プロモーション映像の制作	世界中の若者に京都を身近に感じていただくとともに、「京都の大学で学びたい」、「京都で学生生活を送りたい」という思いを持っていただくことで、京都への留学を促進するため、留学生誘致プロモーション映像「Why Choose Kyoto?」を制作する。	A	・京都の好きなところ、京都で学ぶ理由、日本人とのふれあい、生活のしやすさ等について伝えるメイン映像の制作 ・10人の留学生がそれぞれの国の言語で「京都で学ぶ魅力」、「京都に来て感じたこと(京都に来る前との印象の違い)」、「母国の学生に向けたメッセージ」などを伝えるインタビュー映像の制作 ・上記映像をYoutubeで配信することに加えて、配布用DVDを2,000枚作成	—	総合企画局
		イ	東南アジアも視野に入れた「京都の大学紹介セミナー」の開催	海外での京都留学フェア開催	留学生スタディ京都ネットワークが「京都留学フェア」を海外で開催し、学生向けのセミナー・個別相談を行うほか、現地の教育機関等の日本留学関係者との交流会を開催する。	B	平成26年12月に8大学参画のもと台北で実施し、約390名が来場した。	留学生スタディ京都ネットワークに事業を移管し、台湾で実施する予定。	総合企画局
		ウ	「京都留学サイト」(4言語)の運営	国内外留学フェアへの京都ブース出展	例年開催されている日本学生支援機構の「日本留学フェア」等に初めて京都ブースを出展し、留学コーディネータが同ブースにおいて大学・日本語学校、留学生支援施策など、京都の留学情報を包括的に発信するとともに、現地の教育機関や留学関連事業者に働きかける。	E		日本学生支援機構の「日本留学フェア」などに京都ブースを出展し、て大学・日本語学校、留学生支援施策など、京都の留学情報を包括的に発信する。	総合企画局
		エ	「京都留学サイト」(4言語)の運営	総合ポータルサイトの運営	大学・日本語学校などの学校情報、住宅・就職を含む生活情報など、京都留学に関する総合ポータルサイトを設置・運営する。	C	年間アクセス数 25,725件 ページ別内訳: 日本語 6,312件 中国語 15,083件 英語 3,030件 韓国・朝鮮語 1,300件	現在市・府それぞれが運営している海外向け留学サイトを統合し、大学・日本語学校などの学校情報、住宅・就職を含む生活情報など、京都留学に関する総合ポータルサイトを平成27年10月に開設する。	総合企画局
		オ	市の友好交流都市(姉妹都市、パートナーシティ)や関係機関などとの連携による情報発信	—	京都で学ぶ留学生を誘致するため、本市友好交流都市(姉妹都市、パートナーシティ等)や(一財)自治体交流協会などと連携し、「大学のまち・学生のまち」としての魅力を発信する。	B	・京都・西安(中国)友好都市提携40周年記念事業の一環である、京都市代表団の西安市訪問中に、現地の大学生との懇談会を実施。 ・イスタンブール市(トルコ)で開催された、「日本留学フェア」(主催:同志社大学)において、留学生誘致に関する資料(パンフレット、DVD等)の配架を実施。 ・(一財)自治体国際化協会の海外事務所の協力により、短期留学受入事業の広報を実施。 ・海外からの賓客受入時や海外への出張時に、留学生誘致に関する資料(パンフレット、DVD等)を提供。	引き続き、本市友好交流都市(姉妹都市、パートナーシティ等)や(一財)自治体交流協会などと連携し、留学生誘致に向けた「大学のまち・学生のまち」としての魅力を発信する。	総合企画局
	(2) 「京都に触れよう」大学のまち京都の魅力を体感できる短期留学受入の実施	ア	大学コンソーシアム京都加盟校の特色ある講義と、伝統文化(禅、生け花、お茶など)、伝統産業、先端産業などの京都体験とを組み合わせた短期留学受入プログラムの開発・実施	「大学のまち京都」の魅力を感じられる短期留学受入事業	日本への留学に関心のある海外の学生が実際に京都を訪れる機会を提供し、多様な大学による特色ある講義や伝統文化、伝統産業、先端産業などの京都体験を通じて京都の奥深い魅力を知ってもらうことで、京都の大学への留学につなげる。	C	大学コンソーシアム加盟大学における日本文化・社会に関する講義、座禅・日本料理作りなどの文化体験、バディプログラムによる日本人学生との交流などによる2週間の短期プログラムを開発した。	「大学のまち京都」の魅力を体感できる短期留学受入プログラムを夏期:平成27年8月、冬期平成28年1月に実施する。	総合企画局
		イ	大学コンソーシアム京都が連携している海外の大学コンソーシアムや海外の大学の日本研究センターなどを通じた短期留学受入プログラムの広報	(再掲)リ2-(2)-ア		B	専用ポータルサイトを設置し、フェイスブックなどと連動させながら、本プログラムの周知を行った。また、プログラムのパンフレットを作成し、日本研究の学科等を持つ海外の大学に送付して、広報を行った。	引き続き、前年度と同様の方法により、プログラムの周知を図る。	大学コンソーシアム京都
		ア	大学コンソーシアム京都における海外の協定大学コンソーシアムとの連携による留学プログラムの実施	多面的な国際交流の充実と高等教育の質向上に向けた国際連携プログラム開発	単独では留学プログラムの開発が困難な中小規模の大学の学生にも、多様なレベルで留学の機会が確保できるよう、(公財)大学コンソーシアム京都が提携を締結しているビクトリア州のコンソーシアム等と連携し、留学派遣プログラムを実施する。	B	単位互換制度を活用し、豪州メルボルンと米国ボストンへの留学派遣プログラムを実施した(メルボルン15名参加、ボストン6名参加)。	引き続き、単位互換制度を活用し、豪州メルボルン、米国ボストンへの留学派遣プログラムを実施する。	総合企画局

柱	項目	具体的な取組	事業名	事業概要	方向性分類	平成26年度実績	平成27年度計画	実施主体				
	(3)	「世界を見よう」京都で学ぶ学生の海外留学派遣の強化	イ	「海外留学派遣プログラム開発支援事業」の実施	海外留学派遣プログラム開発支援事業	京都市域の活性化に役立つ留学プログラムを開発する大学等に対して経費を助成する。	B	19件の申請があり、10件採択した。	平成27年4月1日から平成27年7月4日まで募集し、10件程度を採択する予定。	総合企画局 大学コンソーシアム京都		
			ウ	大学の留学プログラム実施に係る支援策の検討				F	今後検討する。			
2	(1)	留学生支援機能の強化		留学生スタディ京都ネットワーク	留学生スタディ京都ネットワーク	大学、日本語学校、専修学校、経済界、京都府とともに、海外から京都の大学等への留学をオール京都で促進するための組織を運営する。	E		留学をオール京都で促進するために留学生スタディ京都ネットワークを設立し、留学コーディネータ2名を配置し、京都への留学及び留学中の相談・問合せにワンストップで対応するとともに、海外の大学、日本語学校とネットワークを築き、情報発信を強化する。	総合企画局 大学コンソーシアム京都		
				(再掲)リ2-(1)-ウ			C		現在市・府それぞれが運営している海外向け留学サイトを統合し、大学・日本語学校などの学校情報、住宅・就職を含む生活情報など、京都留学に関する総合ポータルサイトを平成27年10月に開設する。	総合企画局 大学コンソーシアム京都		
	(2)	留学生などに住み良いまちづくり	①	住宅関連企業による留学生向け住宅斡旋の促進	「外国人のためのお部屋情報 HOUSEnavi」の運営	「外国人のためのお部屋情報 HOUSEnavi」の運営	敷金・礼金がないなど留学生が借りやすい住宅情報を中心に掲載した「外国人のためのお部屋情報 HOUSEnavi」を4言語(日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語)で運営。(運営元:(公財)京都市国際交流協会)	B	平成25年5月から継続して、(公財)京都市国際交流協会が日本賃貸住宅管理協会京都府支部(日管協)と共同で「外国人のためのお部屋情報 HOUSEnavi」運営した。	引き続き、日本賃貸住宅管理協会京都府支部(日管協)と共同で「外国人のためのお部屋情報 HOUSEnavi」を運営する。	総合企画局	
					京都市空き家活用・流通支援等補助金	京都市空き家活用・流通支援等補助金	現に居住者又は利用者がいない空き家を、留学生又は外国人研究者の住まい等として活用する場合に、改修工事や家財の撤去にかかる費用の一部を補助する。	D	活用・流通促進タイプ 22件 特定目的活用支援タイプ 24件	・4月13日～受付開始 補助対象者の拡大及び「特定目的活用支援タイプ」の補助対象建築物の要件を緩和など、より利用しやすい制度とするための制度の見直しを行う	都市計画局	
					京都市、京都橋大学及び醍醐中山団地庁内連合会の地域連携事業	京都市、京都橋大学及び醍醐中山団地庁内連合会の地域連携事業	京都橋大学が、醍醐中山市営住宅の空き住戸を活用し、そこに学生(留学生含む。)がルームシェア形式居住することにより、住民として団地の活動に参加するとともに、大学が、団地内に地域と連携する拠点となる「地域連携センター」の分室を設置・運営し、子育て世帯や高齢者の支援などを行うことで、団地の活性化を目指す。	B	・京都市、京都橋大学及び醍醐中山団地町内連合会の地域連携事業に係る協定を締結した。(10月)	・大学が、団地内に「国際シェアルーム」及び地域と連携する拠点となる「地域連携センター」の分室を設置・運営する。(4月) ・学生ボランティア団体による子育て世帯の支援や、団地内住民を対象とした健康相談事業の開催による高齢者の支援等を行う。	都市計画局	
					京都市市営住宅(改良住宅)への留学生入居募集	京都市市営住宅(改良住宅)への留学生入居募集	世帯留学生向けに市営住宅を提供する。	B	世帯留学生の住居として改良住宅の空き家整備を実施、大学を通じて入居者を募集した。	世帯留学生の住居として改良住宅の空き家整備を実施、大学を通じて入居者を募集する。	都市計画局	
					京都地域留学生住宅保証制度	京都地域留学生住宅保証制度	連帯保証人を見つけることができない京都地域の留学生が「連帯保証人不要」な形で住宅確保ができるよう、京都地域留学生住宅支援機構加盟大学が、制度に賛同していただける協力事業者(仲介業者・管理業者・家主)と協力して留学生を支援する制度	B	新規利用者数 89名	引き続き実施する。	大学コンソーシアム京都	
					大学施設整備支援事業	大学施設整備支援事業	土地の紹介や土地利用に関する相談を通じた支援を行う。	B	・各大学からの相談に対応した。	・各大学の相談に応じて、市有地活用の提案や民有地情報の提供を行い、留学生寮などの設置を支援する。	総合企画局	
					③ 留学生などの生活支援	京都市生活ガイドの配布	京都市生活ガイドの配布	初めて京都で生活する外国人が安心して暮らせるように、生活上の留意点を説明した冊子(英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語)を配布する。	B	生活上の留意点を説明した冊子(英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語)を配布した。	引き続き、生活上の留意点を説明した冊子(英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語)を配布する。	総合企画局
						外国人留学生交流等補助事業	外国人留学生交流等補助事業	留学生を含む市民団体などが主体となって行う留学生との交流活動に対して補助する。	B	5団体採択	引き続き実施する。	総合企画局

柱	項目	具体的な取組	事業名	事業概要	方向性分類	平成26年度実績	平成27年度計画	実施主体
		④ 留学生の交流機会の充実	京都留学生同窓会	京都で学ぶ留学生やOB・OG、留学生を支援したい日本人の交流機会を提供するため、フェイスブックを活用した情報発信事業を実施する。((公財)京都市国際交流協会に業務委託)	B	フェイスブックを活用した日本語・英語による情報発信の実施した。	引き続き、フェイスブックを活用した日本語・英語による情報発信を実施する。	総合企画局
		⑤ 京都を好きになってもらう取組の充実	留学生優待プログラム	市内文化施設等への入場優待やイベントへの無料招待を実施する。((公財)京都市国際交流協会に業務委託)	B	「留学生おこしやすPASS」を発行し、PASSを保持する留学生を対象に、京都市内の文化施設等(対象:15施設)への入場優待、京都市主催のイベント等への無料招待を実施した。	引き続き、市内文化施設等への入場優待やイベントへの無料招待を実施する。	総合企画局
	(3) 留学生の進路・社会進出の支援		外国人留学生のための就職ガイダンス&ジョブフェア	日本での就職を目指す留学生に対し、就職活動に関する情報の提供や採用担当者と直接面談ができる説明会を実施する。(実施主体:(公財)京都市国際交流協会)	B	留学生向けのキャリアガイダンス&ジョブフェアを開催した。(26年度参加者数・参加企業数実績:留学生359名、日本人学生332名、企業21社)	引き続き、留学生向けのキャリアガイダンス&ジョブフェアを開催する。	総合企画局
			留学生いきいき人材バンク(kokoka留学生ねっと)、World Stageの運営	留学生を対象に、社会活動などの情報を掲載するウェブサイト運営する。(実施主体:(公財)京都市国際交流協会)	B	留学生を対象に、社会活動などの情報を掲載するウェブサイト運営した。(26年度末時点での登録数:留学生530名、企業等108団体)	引き続き、留学生を対象に、社会活動などの情報を掲載するウェブサイト運営する。	総合企画局
	(4) 大学職員の国際化の支援		職員向け英語スキルアップ研修	大学コンソーシアム京都加盟校の職員を対象に、英語力向上のための研修を行う。	B	大学教職員向けに英語研修を実施した。(計4回)	引き続き実施する。	大学コンソーシアム京都
	(5) 海外との学術教育研究の交流促進				B	台湾の大学コンソーシアム(FICHET)と交流し、台湾で実施した「京都の大学紹介セミナー」の広報協力を得るとともに、今後それぞれの国で実施するイベント等についての協力について確認した。	海外の学校関係者等が京都を訪問する機会や、留学フェアで他国の学校を訪問する機会などを生かして、大学連携組織間の交流、大学間の交流を促進する。	大学コンソーシアム京都
3	(1) 「未来の京都を担う」京都企業と連携した人財育成	① 京都で学ぶ学生や留学生からなる学生チームと京都企業との連携プロジェクトの実施	京都企業と連携した次代の京都を担う人財の育成事業	大学や国籍の垣根を超えた多様な学生・留学生がチームで、京都企業と連携して課題に取り組むPBLプログラムを実施する。	B	9プロジェクトを実施し、11大学から48名の学生が参加。	引き続き実施する。	総合企画局
		② プロジェクトを通じた、留学生を含む学生の職業観の育成と京都企業への就職の意識づけ		(再掲)リ3-(1)-ア	B	9プロジェクトを実施し、11大学から48名の学生が参加。	引き続き実施する。	総合企画局
	(2) 「京都で働く」京都企業と学生のマッチングの促進	① 「京都企業・就業情報データベース(京のまち企業訪問)」の充実	・京都企業・就業情報データベースシステムの運営 ・京都企業魅力発信「京のまち企業訪問」運営事業	学生をはじめとする求職者等に京都企業の魅力を広く知ってもらい、京都の企業への就職に結びつけるため、企業情報データベースを作成し、インターネット等を活用して情報発信を行う。	B	・京都府のWEBサイト「きょうと就職支援Net」と統合し、「京都ジョブナビ」を開設。「(京のまち企業訪問)」は、引き続き、京都企業検索ページとして魅力ある京都企業の情報を発信) ・掲載企業数は、京都府のWEBサイトとの統合や新規開拓等により426社増加し、合計3,270社、累計アクセス件数は、15,810,633件(いずれも平成27年3月末時点)となった。	引き続き、新規掲載企業の開拓や掲載記事の更新等により、掲載内容の充実を図る。	産業観光局
		② 「京都企業・就業情報データベース(京のまち企業訪問)」掲載企業による合同企業説明会の実施	・京都企業・就業情報データベースシステムの運営 ・京都企業魅力発信「京のまち企業訪問」運営事業	「京都企業・就業情報データベース(京のまち企業訪問)」登録企業による合同企業説明会や個別企業説明会、業界研究会等を実施する。	B	・合同企業説明会を実施(①平成26年7月:参加企業22社、来場者数203人、②平成26年11月:参加企業21社、来場者数132人、③平成27年1月:参加企業71社、来場者数600人) ・出張企業説明会を実施(平成26年10月~11月、平成27年2月、参加大学数6校、参加企業数64社、来場者数183人) ・個別企業説明会を実施(平成26年7月~3月、参加企業30社、延べ来場者数252人) ・マッチング交流会(逆面接会)を実施(平成27年2月、参加企業数35社、求職者15人) ・平成27年1月に業界研究会を実施(参加企業51社、来場者数700人)	京都企業と学生等とのマッチングを支援するため、合同企業説明会や個別企業説明会、業界研究会等を開催する予定。	産業観光局

柱	項目	具体的な取組	事業名	事業概要	方向性分類	平成26年度実績	平成27年度計画	実施主体			
3	(1)	大学卒業後の多様な選択肢を描ける人財育成の推進	学生の進路・社会進出の支援(推進施策)	①	京都市フルカパー学生等就職支援事業の推進	京都市フルカパー学生等就職支援事業	大学学等が提供するインターンシップ制度等の機会に恵まれない学生や既卒者等に対して、就職に向けた人材育成研修や個別キャリアカウンセリングを実施し、既卒者や大学生等の意識改革から就職までの支援を行う。	B	・各種セミナー(春季・夏季集中セミナー、企業人との座談会、3回生向けのワークショップ、エントリー直前対策等)や個別カウンセリングを実施(述べ利用者数:5,875人)	引き続き、各種セミナーや個別カウンセリング等を実施する予定。	産業観光局
				②	段階的に職業観を育むキャリア教育の推進	スチューデントシティ・ファイナンスパーク	施設内に再現した実際の「街」の中で、子どもたちが、接客や販売等、一人の大人として働くことや収入と支出を踏まえた生活設計の構築を通して、社会と自分の関わり、経済の仕組み、働くことの意義を学ぶ活動をしている。児童・生徒の活動にあたっては、市民、学生、保護者をはじめ企業・団体等のボランティアの協力を得て進めている。	B	今後も、産学公連携により、市民ボランティア、企業ボランティア等の協力を得て、事業の拡充を図る。 ・スチューデントシティ学習 実施校数 163校(全校実施) 参加児童数 10,386人 ・ファイナンスパーク学習 実施校数 55校 参加生徒数 6,306人	今後も、産学公連携により、市民ボランティア、企業ボランティア等の協力を得て、事業の拡充を図る。 ・スチューデントシティ学習 実施予定校数 165校(全校実施) 参加予定児童数 10,468人 ・ファイナンスパーク学習 実施予定校数 59校 参加予定生徒数 6,280人	教育委員会事務局
						生き方探究・チャレンジ体験推進事業	中学生が自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」を身につけるとともに、集団や社会の一員としての自己の在り方と生き方を考えるきっかけを生み出すため、生徒の興味・関心に応じた勤労体験・職場体験、ボランティア体験などの社会体験活動を実施する。	B	実施校・・・78校 参加生徒数・・・10,236名 受入事業所数・・・3,706か所	実施予定校数・・・77校 参加予定生徒数・・・10,167名 受入予定事業所数・・・3,700か所	教育委員会事務局
				③	大学コンソーシアム京都インターンシップの充実	大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム	大学コンソーシアム京都が実施するインターンシッププログラムの実習生を受け入れる。	B	パブリックコース実習生受入 受入期間 8月18日～9月5日, 19職場, 24名	パブリックコース実習生受入 受入期間 8月17日～9月4日, 17職場, 19名	総合企画局
				④	学生のベンチャー・ソーシャルビジネスマインドの育成	RELEASE;	社会的課題に関心を持ち「何とかしたい」と考えている大学生や若者、新たな手法を模索する行政、社会貢献という視点で新たな事業展開を図る企業の3者が集い、意見交換会や現地調査等を経てビジネスアイデアを練り上げる。	B	30歳以下の社会人、大学生、企業がワークショップやブラッシュアップイベントなどを通じて、社会課題を解決するビジネスアイデアを創出した。 参加者 延べ2,121人、参加団体 9社・1自治体	8月8日にキックオフイベントを行う予定 その後チームに分かれてビジネスアイデアの検討を行う。	産業観光局
						京都市ソーシャルビジネス支援事業	まちづくりや商店街の振興、高齢者対策や子育て支援、環境保護対策など様々な社会に存在する課題(社会的課題)を継続的に収益を確保しつつ、解決していこうとする事業主体であるソーシャルビジネスが成長するための基盤を構築する。	E		「京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター構想」のもと、ソーシャルビジネス企業認定制度創設、社会的企業をトータルで育成する経営支援、キュレーター育成、ビジネスアイデア学習プログラム「RELEASE;」の充実、京都市ソーシャル・イノベーション・センター(仮称)の設置、ソーシャル・イノベーション・サミットの実施を予定している。	産業観光局
						ビジネス総合力養成講座『京都D-school』	京都地域における起業や新事業の創出を促進させ、地域産業や経済の活性化を図ることを目的に、主に京都市内の中小企業者を対象としたビジネス総合力養成講座を開催する。	B	平成26年度は全11日間のセミナーを開催 通期受講者数:28名 開催期間:平成26年6月28日～平成27年12月13日 (平成27年1月17日は成果発表会)	平成27年度は全11日間のセミナーを開催 開催期間:平成27年7月11日～平成27年12月19日 (平成27年6月20日はオープニングセッション、平成28年1月16日は成果発表会)	産業観光局
						京おんな塾	店舗開業や地域に密着したソーシャルビジネス等での起業を目指す女性を対象に、それぞれの夢の実現を目指すため、起業に必要な基礎知識を習得するための講義や、先輩起業家の体験談を聞くなどのカリキュラムを実施する。また、専門家に起業内容や起業方法のアドバイスを受けながら、自身のビジネスプランを構築する。	B	平成26年度は6回のセミナーを開催 受講生 20名 修了生 18名	引き続き、女性の起業を支援するためのセミナーを開催。	産業観光局

柱	項目	具体的な取組	事業名	事業概要	方向性分類	平成26年度実績	平成27年度計画	実施主体	
	(2)	ニーズに対応した就業マッチングの促進	京都スタートアップカレッジ	起業への関心がある学生や若手社会人から構成されるチームを対象に、起業、ソーシャルビジネス、エンジニア、ファイナンス等の各分野の専門家による講義及び指導等によるサポートのもと、グループワークでビジネスプランを発表するコンテストを行い、起業へつなげていく実践的なプログラムを実施する。	B	平成26年度は8回のセミナー、講義等を開催 受講生 32名	引き続き、セミナーを開催。	産業観光局	
			・京都企業・就業情報データベースシステムの運営 ・京都企業魅力発信「京のまち企業訪問」運営事業	「京都企業・就業情報データベース(京のまち企業訪問)」登録企業による合同企業説明会や個別企業説明会、業界研究会等を実施する。	B	・合同企業説明会を実施(①平成26年7月:参加企業22社, 来場者数203人, ②平成26年11月:参加企業21社, 来場者数132人, ③平成27年1月:参加企業71社, 来場者数600人) ・出張企業説明会を実施(平成26年10月~11月, 平成27年2月, 参加大学数6校, 参加企業数64社, 来場者数183人) ・個別企業説明会を実施(平成26年7月~3月, 参加企業30社, 延べ来場者数252人) ・マッチング交流会(逆面接会)を実施(平成27年2月, 参加企業数35社, 求職者15人) ・平成27年1月に業界研究会を実施(参加企業51社, 来場者数700人)	京都企業と学生等とのマッチングを支援するため、合同企業説明会や個別企業説明会、業界研究会等を開催する予定。	産業観光局	
			(再掲)推3-(1)-①	B	・各種セミナー(春季・夏季集中セミナー、企業人との座談会、3回生向けのワークショップ、エントリー直前対策等)や個別カウンセリングを実施(述べ利用者数:5,875人)	引き続き、各種セミナーや個別カウンセリング等を実施する予定。			
(1)	「京都発イノベーション」大学との連携によるものづくり技術の継承・発展	ア イ	「京都市成長産業創造センター」における産学共同研究プロジェクトの推進	京都市成長産業創造センターでの取組の推進	大学・研究機関、企業等の産学公が連携し、最先端の大学の技術シーズを着実に事業化につなげる研究プロジェクトを推進して、「グリーン・イノベーション」(環境エネルギー分野革新)と「ライフ・イノベーション」(医療・介護分野革新)を実現し、付加価値の高い高機能性化学品を生み出すとともに、その成果を地元の中小企業に橋渡しすることにより、京都市域における産業競争力の確保と新規事業の創出を図る。 また、人材育成や産学公の交流の場を提供し、幅広い情報交流の促進と新たな連携の創出を図る。	B	・大学の最先端の研究成果を着実に事業化につなげる研究プロジェクトを推進 ・入居者交流会(5月) ・定期フォーラム(7月) ・1周年記念フォーラム(11月) ・入居者勉強会(12月) 等	・大学の最先端の研究成果を着実に事業化につなげる研究プロジェクトを推進	産業観光局
			「研究成果展開事業(スーパークラスタープログラム)」や「地域イノベーション戦略支援プログラム」における産学連携による環境分野の研究開発及び事業化の推進	地域イノベーション戦略支援プログラム	産学公連携のための大学等の機能強化、地域における産学公共同研究、地域の大学間ネットワークの形成、先端的な融合領域における研究開発拠点形成等を通じて、地域が主体的に実施するイノベーション創出のためのシステム整備を図ることを目的としたプログラムであり、知的財産の形成や人材育成など、地域の自立的・主体的な活動展開に対する支援を行う。	B	・環境・エネルギー分野における産学公連携による事業化推進等を実施	・環境・エネルギー分野における産学公連携による事業化推進等を実施	産業観光局
				スーパークラスタープログラム	これまで各地域で取り組まれてきた地域科学技術振興施策の研究成果を活かしつつ、社会ニーズ、マーケットニーズに基づき国主導で選択と集中、ベストマッチを行い、国際競争力の高い広域連携による「スーパークラスター」を形成することを目的としている。さらに、本事業は10年程度を見通した将来ビジョンに基づき、成熟したコアクラスターの成果のうち、要素技術に留まっていた研究開発課題をサテライトクラスターとの連携により技術を高度化し、その基盤を一層強化するとともに、事業化の実現を図るため、産学の広域連携により取組を進める。	B	・環境・エネルギー分野における産学公連携による事業化推進等を実施	・環境・エネルギー分野における産学公連携による事業化推進等を実施	産業観光局

柱	項目	具体的な取組	事業名	事業概要	方向性分類	平成26年度実績	平成27年度計画	実施主体	
4 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化(リーディング施策)	(2) 「飛び出す大学」大学と地域の連携・コーディネートの仕組みの充実	ウ	京都産学公共同研究拠点「知恵の輪」における地域の大学との共同研究推進	地域産学官共同研究拠点整備事業	「京都バイオ産業創出支援プロジェクト」等による産学公のネットワークを生かし、酒造業界をはじめとする食品・試薬・計測機器等の産業に係る研究開発プロジェクトを推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 高度研究機器を活用した大学等との共同プロジェクトを推進 先端研究機器に精通した高度技術者等の育成(人材育成セミナー等の実施) ○京都バイオ計測センターシンポジウム「ヘルスケアを支えるバイオ計測」を開催(11月) ○先端光加工プロジェクトセミナー「新しいものづくり加工プロセスを切り拓く3D金属・砂型積層造形技術」(10月) 	<ul style="list-style-type: none"> 高度研究機器を活用した大学等との共同プロジェクトを推進 先端研究機器に精通した高度技術者等の育成(人材育成セミナー等の実施) ○京都バイオ計測センターシンポジウムを開催予定 ○先端光加工プロジェクトセミナーを開催予定 	産業観光局
		ア	京都市の部局や区役所と大学との協定締結による連携事業の推進		京都市と大学の連携事業を推進する。	B	平成27年3月現在、183件の協定を締結。	引き続き、大学と連携した取組の推進に努める。	総合企画局
		イ	地域による主体的なまちづくりを支援する「区民提案・共汗型まちづくり支援事業予算」における大学・学生枠の設置などによる事業の推進	区民提案・共汗型まちづくり支援事業	地域と大学・学生が協力したことにより、地域の活性化や子育て支援、世代を超えた交流などさまざまな事業が行われた。 また、未来の地域の担い手となる人材や地域に関心を持つきっかけづくりの場を提供することができた。	B	地域と大学・学生が協力したことにより、地域の活性化や子育て支援、世代を超えた交流などさまざまな事業が行われた。 また、未来の地域の担い手となる人材や地域に関心を持つきっかけづくりの場を提供することができた。	引き続き実施する。	文化市民局
		ウ	地域活性化や課題解決に向けた大学と地域の一体的な取組を支援し、学生の学びの機会を創出する「学まちコラボ事業」の推進	大学地域連携創出・支援事業	魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて、大学・学生と地域が一体となって取り組む事業を広く募集し、助成金を交付するとともに、他の地域のモデルとして応用、展開を図る。助成金額は1件につき30万円以内、7～10件程度を認定予定。	B	応募:27件、採択:16件(うち1件が奨励事業) 町家の暮らしの灯りを表現したライトアップイベント等により町家の魅力を参加者と共有する事業を優秀賞に選考した。	応募のあった18事業のうち14事業を認定し、事業を推進する。	総合企画局 大学コンソーシアム京都
		エ	京都の大学に設置された社会連携センター、地域連携センターなどのネットワークづくり、大学と地域とを繋ぐマッチング・コーディネートの仕組みづくり			F		今後検討する。	大学コンソーシアム京都
		オ	文部科学省「地(知)の拠点整備事業」採択校との連携と、今後申請する大学への助言・提案など支援の推進	地(知)の拠点大学による地方創生推進事業の採択大学・申請大学との連携	大学が企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 25年度に採択された京都大学、京都工芸繊維大学のCOC事業実行本部に参画。 市長が京都大学COC事業の「京都創造論」においてゲスト講義。 	引き続き連携して事業を推進する。	総合企画局
		① 産学公連携コーディネートの向上	京都産学公連携機構	京都における産学公のあらゆる機関が相互に情報を共有しながら連携と協働を進めるための基盤として設立された「京都産学公連携機構」に分担金を支出するなど、同機構が実施する事業を支援する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 総会の開催(6月) 文理融合・文系産学連携促進事業の実施(文理融合または文系分野の産学連携の取組に対し助成金を交付) 大学の事務局やリエゾンオフィスの横串の組織を形成し、オール京都の産学公連携を支えるインフラとして、京都地域大学リエゾン協議会を設置 「京都イノベーションベルト構想」の具体化・推進(オール京都による、ハード・ソフト両面の産学公連携インフラの活用を図り、次々とイノベーションを誘発する「イノベーションの都」の実現を目指す取組) 産学連携コーディネータ交流会の開催 ホームページ、メールマガジン(随時)による情報発信 等 	<ul style="list-style-type: none"> 総会の開催 文理融合・文系産学連携促進事業の実施(文理融合または文系分野の産学連携の取組に対し助成金を交付) 社文系産学連携の創出の加速(大企業の開放特許を活用する社文系産学連携プロジェクトに取り組む大学のプロセス、情報を共有化) 京都イノベーションベルト推進フォーラムの開催 産学連携コーディネータ交流会の開催 ホームページ、メールマガジン(随時)による情報発信 等 	産業観光局	

柱	項目	具体的な取組	事業名	事業概要	方向性分類	平成26年度実績	平成27年度計画	実施主体		
(1)	産学公の連携による京都経済の活性化	② 文系学部と企業の連携強化	京都市ライフイノベーション創出支援センター	大学及び中小・ベンチャー企業等の技術シーズ、医療機関等のニーズの発掘に常時取り組むとともに、有望な研究テーマについては大学・企業等との連携の下、事業化に向けて、産学連携のコーディネート活動を行うほか、国等の研究開発プロジェクト等に位置付けられるよう伴走支援を行う。 大学発のシーズの事業化を進めるため、大学発ベンチャーの設立支援等も含め、発掘から事業化が見込める段階までの伴走支援を行う。	B	・コーディネーション活動については、ディレクター、コーディネーターを中心に活動 ・京都発革新的医療技術研究開発助成事業 応募 85件 採択 21件(6月) ・医工薬産学公連携支援シンポジウムを実施(11月) 参加者: 88名 ・社会人のためのバイオ入門講座(11月~12月) 参加者: 4回延べ102名	・コーディネーション活動については、センター長、コーディネーターを中心に活動 ・京都発革新的医療技術研究開発助成事業 応募 65件 採択 27件(6月) ・医療機器産業入門セミナーを実施予定 ・医工薬産学公連携支援シンポジウムを実施予定 ・社会人のためのバイオ入門講座を実施予定	産業観光局		
			文理融合・文系産学連携促進事業	文理融合・文系分野において産学公連携により研究を推進するグループに助成金を交付することで、研究活動を支援し、研究開発プロジェクトや事業化へのステップアップを図る。	B	文理融合・文系産学連携促進事業の実施(文理融合または文系分野の産学連携の取組に対し助成金を交付)	・文理融合・文系産学連携促進事業の実施(文理融合または文系分野の産学連携の取組に対し助成金を交付)	産業観光局		
		③ 大学をいかした国内外コンベンションの誘致支援	京都観光経営学講座	他社・他地域に負けない個性を磨き上げるに必要な経営戦略、マーケティング、ICT戦略など、これからの観光経営に必要なノウハウを、観光業界で実際に働く社会人向けに、わかりやすく提供する。	B	海外からの誘客を視野に入れた戦略的経営を実践できる人材の育成を図るため、平成24年度に試行実施した「京都観光経営トップセミナー」を踏まえたくらみでカリキュラムを策定し、経営・マーケティング専門家や同分野に関連する先駆者等を講師とした「京都観光経営学講座」を本格実施した。(参加人数: 57名)	平成27年度は、国内外の観光客に対する京都ならではのおもてなしの向上を図るため、「京都観光経営学講座」を更に進化・発展させ、経営分野に限らない多岐に渡る講座内容のリニューアルや履修証明書の発行を行うなど、より質の高い人材育成講座を実施予定。	産業観光局		
			京都市大規模国際コンベンション開催支援助成事業	本市への誘致が特に重要で意義があると判断される会議について、主催者に対する財政支援を行い、戦略的な誘致を強化する。 助成対象は、誘致対象に選定した会議で参加者が概ね500名以上かつ参加国数が3箇国以上の国際的な大規模会議又は審査会が特に誘致の必要性を認める会議。	B	第6回太陽光発電世界会議(250万円)	第5回世界工学会議(300万円)、世界獣医麻酔会議(200万円)、第44回国際実験血液学会(150万円)の3件について助成を予定	産業観光局		
			コンベンション推進事業	京都で開催される公共性の高い国際会議に支援を行うコンベンション受入支援事業。	B	第11回STSフォーラム(科学技術と人類の未来に関するフォーラム)開催支援(550万円)	第12回STSフォーラム(科学技術と人類の未来に関するフォーラム)開催支援予定(600万)	産業観光局		
		④ 国内外の高度人材との交流の推進による新たな価値の創造の促進	大規模国際会議誘致助成事業	大規模国際会議の開催地決定に際し、広報宣伝などのプロモーション経費等を、京都での国際会議の開催を検討している各種団体等に助成金として支給し、国際MICE都市としての地位の更なる向上を目指す(助成金上限: 1会議当たり100万円)。	B		大規模国際コンベンションを対象に、京都への会議の誘致に係る、広告宣伝費、印刷製本費、会場借上費等の経費を助成予定	産業観光局		
			京都・高度人材交流拠点構想(仮称)の策定	京都発の知的交流の場に国内外における世界トップレベルの優れた人材を呼び込み、新たなビジネスの創出や企業間のオープン・イノベーション、グローバル人材の育成、世界的な人的ネットワークの形成等を図る。	B	京都・高度人材交流拠点構想(仮称)の設置に必要な基礎資料を得ることを目的として、高度人材の定義や拠点に必要な機能、また、その機能を実現するための仕様等を整理するとともに、設置手法や運営スキームについての設置可否を判断する調査を実施した。	26年度の実績をふまえ、「京都・高度人材交流拠点構想(仮称)」を策定する。	産業観光局		
		(2)	教育・研究分野の新展開を目指す大学との連携強化			大学の教育・研究分野の新展開に関する情報を早い段階から共有し、京都市の施策との連携促進につなげる。	B	大学との情報共有、連携強化に努めた。	大学との情報共有、連携強化に努める。	総合企画局

柱	項目	具体的な取組	事業名	事業概要	方向性分類	平成26年度実績	平成27年度計画	実施主体	
4	大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化(推進施策)	(3) 地学公の連携による地域課題への対応	① 地域の問題解決につながる都市政策研究の推進	未来の京都創造研究事業	大学コンソーシアム京都と協働して、未来の京都づくりに向けた政策を立案するための調査・研究を実施するとともに、若手をはじめとした市政を支える研究者等の発掘・育成とネットワーク形成を図る。	B	○ 調査・研究の推進 ・ 公募研究者と関係する部署の市職員等との連携による調査研究の実施、研究者による調査研究の成果報告(6件) 1)「京都市におけるフューチャーセンターを活用した次世代市民協働政策についての研究」 2)「京都市郊外の市営住宅とその周辺住宅地における空間構成と変遷について」 3)「京都市内における住宅庭の環境及びその減少が街区の生物相に与える影響」 4)「京都市における「フューチャーセンター」を活用した次世代型市民協働政策についての研究」 5)「マイナンバー制度の導入に伴う個人情報の保護、管理、利用及び活用のあり方に関する研究」 6)「交流の場づくりによる商業者・市民の育成とネットワーク形成にかかわる実証研究」	○ 調査・研究の推進 以下の5件について研究を実施。 1)障がい者雇用を実現する持続可能な「食の経営」についての研究 2)自転車の走行環境整備における知覚心理学の活用についての研究 3)地域連携活動への参加が学生の意識に与える影響の分析に基づく効果的な大学・地域連携科目及び事業の開発に向けた研究 4)京町家における居住文化に対応した断熱改修手法に関する研究 5)京都市におけるまちの居場所運営の継続要因及び終了要因の抽出	総合企画局 大学コンソーシアム京都
			② 地学公連携の市民への周知	地域連携ウェブサイトの運営	大学の地域貢献や地域と大学との協働による事業を紹介する。	B	大学の地域貢献や地域と大学との協働による事例を紹介した。 91事例	キャンパスプラザ京都の指定管理業務に移管し、引き続き事例を紹介していく。	総合企画局
		(4) 小中高大(院)連携の推進	① 高大連携の強化	京都の大学『学び』フォーラム	京都府内を中心とした高校1・2年生、ならびにその保護者を主な対象とし、当財団加盟大学・短期大学の特色ある模擬講義・体験型講座、大学生との交流企画、その他の企画等を通じて、大学での「学び」の魅力を積極的に伝え、高校生が自らの進路を考える機会を提供することで、高校生の学習意欲の喚起・進学意識の向上を目指すとともに、高等学校・大学の学びの円滑な接続に繋げることを目的に実施するもの。	B	第4ステージプランにおいて示されている「高校・大学・社会へと繋がるキャリア意識醸成」の実現に向け、模擬講義、体験型講座のほか、キャリア講座や学生との交流企画等を行った。 開催日：2014年10月26日(日) 会場：同志社大学 今出川キャンパス 良心館 参加大学数：29大学 参加者数：1985名 企画内容：模擬講義、体験型講座、保護者向け講座、高校生向けキャリア講座、現役大学生企画、大学別相談ブース等	平成27年度においても、同規模で実施する予定であるが、キャリア意識醸成をさらに進めるため、キャリア講座や大学における研究成果の社会での活用事例を紹介する企画を実施するなど、内容の充実を図っている。 開催日：2015年10月25日(日) 会場：立命館大学 衣笠キャンパス 清心館・敬学館	大学コンソーシアム京都
	② 市立小中学校・高校と大学の連携強化		「学生ボランティア」学校サポート事業	「大学のまち・京都」の特性を活かし、大学との連携のもと、教職を目指す学生を中心としたボランティアを学校・幼稚園に派遣し、各教科やクラブ活動の指導補助などの様々な支援を行っている。一人一人の子どもに対するきめ細かな指導が充実し学校教育活動が一層活性化するとともに、教職を目指す学生の意欲・資質を高めることにより、将来の学校教育を担う教員の確保と養成に資する。	B	109大学・短期大学・専門学校と協定締結 1,879人 24,778回活動	大学との連携をさらに深めるとともに、各学校のニーズにあったボランティアの確保に向け、ポスターやチラシの配布等広報活動の充実にも努める。	教育委員会	
	③ 産学公連携による京都市らしい教育システムの構築		京都教育懇話会	京都の産学公とメディアで組織され、次世代の教育についてのあり方、人材育成の方向性を模索し、先進的な取組を京都から全国へ発信していく。	B	・京都教育懇話会3回実施 ・京都21世紀教育創造フォーラムの実施 ・高校生プレゼンコンテストの実施	・京都教育懇話会4回実施(予定) ・京都21世紀教育創造フォーラムの実施 ・高校生プレゼンコンテストの実施	教育委員会	
			京都こどもモノづくり事業	「ものづくり都市・京都」の特性を生かし、産学公連携のもと、平成21年2月に生き方探究館内に開設した京都の企業創業者・科学者等の努力や情熱を紹介・展示する「京都モノづくりの殿堂・工房」での体験学習、「京少年モノづくり倶楽部」、「至高の動くおもちゃづくりトイ・コンテストグランプリ」などの事業を通じて、小中学生がモノづくりを学び・体験する機会を創出する。	B	・殿堂・工房学習の実施(5~3月) 小141校137回・総支3校3回, 8,693名参加 ・殿堂の一般公開等に係る来館延べ3,309名 ・京少年モノづくり倶楽部の実施(4~3月) 全76回延べ1,627名参加 ・「至高の動くおもちゃづくりトイ・コンテスト」グランプリ開催(1月) 小68校437名参加	・殿堂・工房学習の実施(5~3月) 小151校141回・総支3校3回, 9,194名参加予定 ・京少年モノづくり倶楽部(初級コース)の部員を募集(5~6月)。部員数を60名程度に拡大し、全10回の講座を実施予定。また上級コース講座及び、単発講座としてExtra講座も実施予定。 ・第10回記念「至高の動くおもちゃづくりトイ・コンテスト」グランプリを開催予定(1月)	教育委員会	

柱	項目	具体的な取組	事業名	事業概要	方向性分類	平成26年度実績	平成27年度計画	実施主体
大学をいかした芸術文化環境の向上	(5)	① 芸術系大学の集積をいかした芸術文化力の向上	駅ナカアートプロジェクト	京都市内の芸術系大学等と連携し、地下鉄駅に芸術系大学生の作品を展示する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・京都精華大学・京都工芸繊維大学・京都府立大学・京都教育大学・京都女子大学・京都橘大学・京都造形芸術大学・京都市立芸術大学・京都嵯峨芸術大学が参加。 ・パリ国立高等美術学校が嵯峨芸術大学と作品を共同制作。 ・市バスアートの実施。 ・平成26年3月27日～5月31日実施。 	平成28年3月頃から5月頃まで実施予定。	交通局
		② 歴史・文化の蓄積をいかした社会人向け学習機会の提供	京カレッジ	京都地域の大学・短期大学による大学講義、市民教養講座、キャリアアップ講座、京都力養成コースなどを市民の方も受講できる生涯学習事業。(平成9年度から(公財)大学コンソーシアム京都と共同で実施、平成19年度から京カレッジに改編)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・提供科目数(34大学・1機関):373科目 ・出願科目数:159科目 ・出願者実数:729名 ・出願者延べ人数:1,749名 ・平成27年3月7日(土)に「京都学講座開講15周年特別企画『京の四季とまつり』を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・e-ラーニングを活用した科目の提供 ・事業の更なる充実・発展を目指し、科目の整理や、プログラムの検討・開発等を行う。 	総合企画局
		③ 文化芸術教育プログラムの推進	Art-e Kyoto	芸術系5大学(京都嵯峨芸術大学、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、成安造形大学)と京都市立小・中学校が、それぞれの教育資源を生かし、美術教育の充実や、芸術を大切にす風土づくりを目指して連携を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・京都芸術教育フォーラムの開催 ・連携協議会を4回開催 ・京都子どもアート探検ラリーを開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・京都芸術教育フォーラムの開催 ・連携協議会を4回開催(予定) ・京都子どもアート探検ラリーを開催 	教育委員会
		④ 若手芸術家・クリエイターの育成	東山アーティスト・プレースメント・サービス(HAPS)	若手芸術家を対象に、既存の町家や倉庫、公的住宅、小学校跡地施設や公共空間等を利用して、若手芸術家が京都のまちなかに居住し、活動しつづけることができる環境を整え、新しい創作の活力をまちの活力につなげる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ①居住・制作支援事業 居住・制作スペースを必要とする芸術家と、空き家所有者とを結ぶマッチングを実施した。(空き家マッチング`件数…25件) ②芸術家育成事業 第一線で活躍する芸術家、キュレーターや左官職人等幅広い分野から講師を招き、芸術家として必要なスキルを学ぶ講座を実施した。(レクチャー参加者数…489名) ③芸術家自立支援事業・情報発信事業 京都にしながら芸術家として活躍の場を国内外に広げる機会を提供するキュレーター招聘及びWebサイト上での情報発信を実施した。(キュレーター招聘事業…3名招聘、芸術家の制作スタジオ訪問ツアー3回、トークイベント3回実施/ウェブアクセス件数…109,846回) ④相談対応件数 オフィスやWeb上で芸術家や家主等のさまざま相談に対応し、サポートを行った。(相談対応件数…367件) 	<ul style="list-style-type: none"> ①居住・制作支援事業 居住・制作スペースを必要とする芸術家と、空き家所有者とを結ぶマッチングを実施する。 ②芸術家育成事業 第一線で活躍する芸術家、キュレーター等幅広い分野から講師を招き、芸術家として必要なスキルを学ぶ講座を実施する。 ③芸術家自立支援事業・情報発信事業 京都にしながら芸術家として活躍の場を国内外に広げる機会を提供するキュレーター招聘及びWebサイト上での情報発信を実施する。 ④相談対応 オフィスやWeb上で芸術家や家主等のさまざま相談に対応し、サポートを行う。 	文化市民局
			京都版トキワ荘プロジェクト	京町家を活用して、安価なシェアハウスを漫画家志望者(含む学生)に提供したり、出張編集部やマンガ家向け講習会の開催等を通して、マンガ家志望者がプロとなっていくきっかけを提供できるコミュニティ作りを行う。	B			産業観光局

柱	項目	具体的な取組	事業名	事業概要	方向性分類	平成26年度実績	平成27年度計画	実施主体		
5	学生が持つエネルギーをいかした京都力の強化(リーディング施策)	(1) 「一人一人が輝く」学生の主体的活動の促進	ア	京都学生祭典、京都国際学生映画祭など、学生が主体となって運営する活動の支援	京都学生祭典	大学の枠を超えた京都の学生の力を集約し、行政・経済界・大学界・地域社会と連携を図った上で「学生のまち・京都」を社会へ発信し、それに伴う京都全体への波及効果を創出することで京都中の活性化に繋げ、新しい魅力をこのまちに映し出すことをめざして活動を行う。	B	「結集する想い、惹き込め部台へ」というコンセプト達成のために「地域拡大」「学生の専門性を活かす」という方針を定め、7月には事前企画「学生力inKYOTO~十人十色 京都の学び~」を開催した。 また、大学との関係性の強化を図る「大学連携部門」の新設や活動内容のパネル展示を商業施設などで行った。本祭では台風の接近が危ぶまれたが、学生バンドやアカベラ、NHK京都放送局とのコラボ企画が行われたGrandFinaleなど全7企画を開催することができた。 ・開催日:10月11(日) ・会場:岡崎公園一帯	「京都があなたを魅了する」というコンセプトのもと、国際化の推進と学生祭典の関係者を20万人にするという目標を立てて活動する。 月1回の留学生との交流企画、5月の東北企画、7月のイオン企画、8月の伏見企画、10月の本祭といったイベントを実施する。 ・開催日:10月11(日) ・会場:岡崎公園一帯	大学コンソーシアム京都
			イ	学生や学生グループの活動を支援する「輝く学生応援プロジェクト」の充実	京都国際学生映画祭	上映機会の少ない学生が制作した自主映画を世界各地より集め、上映する機会を学生が創り出すことを通して、学生が成長する機会を創出し続け、人生を変える程の気付きを与える事業。	B	・開催日:11月22日(金)~11月28日(木) ・会場:京都シネマ ・内容:自主制作作品コンペティション、入選作品上映、 関西学生作品特集 他	「京都に根差した映画祭」というコンセプトのもと、京都の大学等にて過去の映画祭作品の上映会を毎月実施を目指す。また、8月に伏見で地域・京都学生祭典と共催でプレ企画、11月の本祭といったイベントを実施する。 ・開催日:11月21日(金)~11月27日(木) ・会場:京都シネマ	大学コンソーシアム京都
			エ	学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を行う。 ・ミーティングブースや、活動に必要な備品等の貸し出し。 ・活動に資する様々な情報や市政情報等を提供するとともに、学生の活動内容を掲示するなど情報発信を行う。また、活動する学生が交流する機会の提供や助言、相談を行う。 ・まちの活性化につながる学生の活動に対し、助成や表彰を行う。 ・学生の活動と地域のニーズとのマッチング、連携を支援する。(むすぶネット)	輝く学生応援プロジェクト	学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を行う。 ・ミーティングブースや、活動に必要な備品等の貸し出し。 ・活動に資する様々な情報や市政情報等を提供するとともに、学生の活動内容を掲示するなど情報発信を行う。また、活動する学生が交流する機会の提供や助言、相談を行う。 ・まちの活性化につながる学生の活動に対し、助成や表彰を行う。 ・学生の活動と地域のニーズとのマッチング、連携を支援する。(むすぶネット)	C	「学生Place+(学生の活動拠点)」を中心に、学生さんが行う京都のまちの活性化につながる活動を総合的にサポートした。登録団体数:38団体。 ・京都のまちの活性化や社会貢献活動に取り組む学生を支援する「学生企画事業まるごとサポート」(上限10万円)を実施。 応募数 5件 採択数 5件(うち1件は辞退) 特に活動内容が優れていた団体を表彰 ・むすぶネットマッチング件数38件 ・平成26年度から、個人単位で学生の活動を支援する「学生ボランティアチャレンジ」を開始。 応募者数 33名 参加者数 25名	引き続き、事業概要に記載の取組等により、学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を行うとともに、「学生ボランティアチャレンジ」については、年1回から年2回の募集に増やして実施する。	総合企画局
(1)	学生の活動を促進する仕組みの充実	①	学生が活動するフィールドの拡充	(再掲)リ4-(2)-ウ	B	応募:27件、採択:16件(うち1件が奨励事業) 町家の暮らしの灯りを表現したライトアップイベント等により町家の魅力を参加者と共有する事業を優秀賞に選考した。	15件程度を採択予定	総合企画局		
			学生が活動するフィールドの拡充	(再掲)推4-(3)-②	B	大学の地域貢献や地域と大学との協働による事例を紹介した。 91事例	引き続き事例を紹介していく。	総合企画局		
		②	学生の市政への参画の促進	青少年モニター制度について	「青少年モニター」の募集を行い、市政の幅広い分野において、意見募集を行い、「青少年が市政やまちづくりに参加する機会を増やし、社会への参加意識を高めるとともに、青少年の視点と意見を市政に反映させる。	B	・モニター募集5/20~6/8(締切後も随時募集) ・人数 32名 ・アンケート2回(2テーマ)実施 1回目7/29~8/30, 2回目9/24~10/25 ・ワークショップ3回(2テーマ)実施 10/27, 12/10, 2/22 (※26年度からの新たな取組として、10/27, 12/10のワークショップは、大学の授業において開催した。)	継続予定	文化市民局	
		政策系大学・大学院研究交流大会	本財団加盟大学の都市政策を学ぶ大学生・大学院生が中心となって、日頃の研究や学習の成果の発表を通じて交流を深めるとともに、地域社会に対して政策提案、情報発信の場となることを目的としている。	B	第10回政策系大学・大学院研究交流大会 開催日程:平成26年12月7日(日)10時~17時30分 場所:大学コンソーシアム京都	第11回大会を平成27年12月を目途に開催予定	総合企画局			

柱	項目	具体的な取組	事業名	事業概要	方向性分類	平成26年度実績	平成27年度計画	実施主体			
5	学生が持つエネルギーをいかした京都力の強化(推進施策)	(2) テーマごとの学生の活動の促進	① 防災、安心・安全の取組	京都学生消防サポーター	市内の大学、短期大学等に通学する者又は市内に居住し、大学、短期大学等に通学する者を対象に、京都学生消防サポーターに登録する者を募集し確保していくとともに、防火及び防災に必要な知識や技能について継続的かつ発展的に指導することにより、大規模災害時に居住地や通学先で地域住民と共に活動するなど、地域の災害対応力の向上を目指す。	B	1 登録者総数 282名 2 活動回数/延べ人数 96回/547名 3 活動状況 ・基礎研修、応急手当普及員講習、追加研修などの研修を実施 ・災害ボランティアセンター講座、消防団体験研修など、関係機関と連携した研修を実施 ・実践活動として、京都市消防出初式、市・区・学区防災訓練、祇園祭及び京都マラソンにおける消防警備、市内各消防署が行う普通救命講習指導などに参加した。 ・学生消防サポーターの自主活動(オリジナルの「災害時初動対応マニュアル」作成)への支援を実施	京都学生消防サポーターの養成 ・新規登録者100名の確保 ・段階的、かつ、効果的な研修指導による防火防災知識や技能の向上 ・知識向上につながる各種情報の提供 ・学生消防サポーター相互のコミュニケーションを深め、モチベーション向上や活動の活性化につなげるための支援 ・学生消防サポーターが地域で自発的に活動しやすい環境の整備(各消防署と連携した実践活動機会の確保及び情報提供、大学等への協力依頼等)	消防局		
				学生防犯ボランティアへの支援	「互いに助け合う、犯罪や事故が少ないまち」を目指し、大学生への支援と連携を進めるため、学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」への支援などを行う。 ※学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」自主防犯活動への参加を希望する大学生を対象に、京都府警察が設けた学生ボランティア登録制度	B	学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」に対して、防犯パトロールなどの学生防犯活動に対して補助金を交付するなど、大学生との支援と連携を進めた。	学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」に対して、防犯パトロールなどの学生防犯活動に対して補助金を交付するなど、大学生との支援と連携を進める。	文化市民局		
			② 環境にやさしい取組	「DO YOU KYOTO?」プロジェクトと「KYO-SENSE」プロジェクトの連携	京都学生祭典において、平成20年度に発足した京都に古くから伝わる伝統的な知恵を現代に生きる若者の感性で学び直し、新しいライフスタイルの提案を目指すプロジェクトと、地球温暖化対策室や循環型社会推進部が連携した取組を行う。	B	・打ち水の実施(8月に4回) ・リユース食器の使用	引き続き実施する。			
			③ コミュニティの活性化	京都学生祭典実行委員会による夜警活動	毎月5日・20日に岡崎・梅逕地域の夜間パトロールに参加。地域・消防分団と一緒に地域の安全に貢献している。地域との交流を深め、本祭への協力を図る。	B	毎月5日・20日に岡崎・梅逕地域の夜間パトロールに参加。地域・消防分団と一緒に地域の安全に貢献している。地域との交流を深め、本祭への来場につながった。	今年も毎月5日・20日に岡崎・梅逕地域の夜間パトロールに参加し、地域・消防分団と一緒に地域の安全に貢献することで地域との交流を深め、本祭への協力につなげる。	大学コンソーシアム京都		
				自治会等への加入促進(きょうと地域カアップ貢献事業者等表彰)	自治会・町内会等を中心とする多様な主体の連携による地域コミュニティ活性化への取組を一層推進することを目的に、自治会・町内会等の地域団体が主体となって取り組む地域活動に関して、これと連携・協力し、地域力の向上に貢献している事業者、NPO法人、大学等を顕彰し、自治会・町内会等を中心とする多様な主体の連携による地域コミュニティ活性化への取組を一層推進する。	B	・表彰対象者を募集し、申請・推薦のあった23団体(うち4大学)を表彰した。	表彰対象者を募集し、表彰式を実施する。	文化市民局		
				(再掲)推2-(2)-②		D	活用・流通促進タイプ 22件 特定目的活用支援タイプ 24件	・4月13日～受付開始 補助対象者の拡大及び「特定目的活用支援タイプ」の補助対象建築物の要件を緩和など、より利用しやすい制度とするための制度の見直しを行う	都市計画局		
			(1) 「京都の大学へ行こう！」学生の力を活用した国内外への情報発信	ア	民間旅行事業者との連携による、大学生が修学旅行生などを案内するキャンパスツアーの実施	街全体がキャンパス 学びの都 京都B&Sプロジェクト	京都を訪れる修学旅行生等に対し、京都の現役大学生が観光地や大学キャンパスなどを一緒に街歩きし、京都の魅力を直接紹介する新しい教育旅行プログラム「京都B&Sプログラム」の実施。	B	ツアー実施 1件(45名)	引き続き、民間旅行事業者と連携して大学生が修学旅行生などを案内するキャンパスツアーを実施	産業観光局 大学コンソーシアム京都
				イ	PR戦略と連動した、学生が主体となった効果的な広報手法の検討	京都学生広報部	大学生の視点で企画・取材・撮影・記事作成した「中高生に伝えたい京都のリアルな情報」をウェブサイトやSNS等で発信する。	E	—	6月3日から学生の募集を開始し、6月26日、30日に説明会を開催(計98名参加)。7月以降、研修や取材などを行い、10月にウェブサイト開設予定。	総合企画局 大学コンソーシアム京都

柱	項目	具体的な取組	事業名	事業概要	方向性分類	平成26年度実績	平成27年度計画	実施主体		
6	プロモーション戦略の強化(リーディング施策)	(2) 「大学のまち京都・学生のまち京都」PR戦略の構築	ア	日本人学生や留学生などの対象ごと、関西・関西以西などの地域ごとのアンケートやヒアリングなどによる学生の意向・ニーズ調査の実施	大学のまち京都・学生のまち京都推進会議プロモーション専門部会	「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力を再検証するとともに、効果的なPRや広報活動につなげるため、必要な取組等を具体的に検討する。	A	平成24年度に未来の京都創造研究事業において実施した調査結果にを活用し、プロモーション専門部会において検討。	総合企画局 大学コンソーシアム京都	
			イ	各大学の海外協定校や交換留学実績などの基礎データの調査・分析による海外PRに関する大学ニーズ(PRの対象国など)の把握		(再掲)推2-(1)	B	各大学の海外協定校等に関する調査を実施。	留学生スタディ京都ネットワークにおいて、各大学の海外協定校等のデータや海外向けPRのニーズ等を踏まえながら、今後検討していく。	総合企画局
			ウ	大学のまち京都・学生のまち京都推進会議のプロモーション検討専門部会(仮称・新設)での戦略的なPR手法の検討	大学のまち京都・学生のまち京都推進会議プロモーション専門部会	「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力を再検証するとともに、効果的なPRや広報活動につなげるため、必要な取組等を具体的に検討する。	A	全4回開催し、27年度以降に実施するプロモーション手法について検討。		総合企画局
6	プロモーション戦略の強化(推進施策)	(1) 「大学のまち京都・学生のまち京都」の中学生・高校生などへの発信	①	中学生・高校生、保護者への広報の強化		(再掲)推4-(4)-①	B	第4ステージプランにおいて示されている「高校・大学・社会へと繋がるキャリア意識醸成」の実現に向け、模擬講義、体験型講座のほか、キャリア講座や学生との交流企画等を行った。 開催日：2014年10月26日(日) 会場：同志社大学 今出川キャンパス 良心館 参加大学数：29大学 参加者数：1985名 企画内容：模擬講義、体験型講座、保護者向け講座、高校生向けキャリア講座、現役大学生企画、大学別相談ブース等	平成27年度においても、同規模で実施する予定であるが、キャリア意識醸成をさらに進めるため、キャリア講座や大学における研究成果の社会での活用事例を紹介する企画を実施するなど、内容の充実を図っている。	総合企画局
			②	修学旅行の誘致・受入体制の充実	きょうと修学旅行ナビの運営	テーマ別モデルコースの紹介や、地図から観光地が簡単に探せるきょうとエリアマップなどにより京都への修学旅行をサポートするウェブサイト。	B	近年主流の京都市内判別自主行動のコースづくり等の事前学習の充実を図るため、きょうと修学旅行ナビを運営した。(約324万ページビュー)	近年主流の京都市内判別自主行動のコースづくり等の事前学習の充実を図るため、きょうと修学旅行ナビを運営する。	産業観光局
	(2)	現役・OBの学生・留学生などによる京都生活の発信	①	京都で学ぶ大学生やOB・OGによる情報発信		(再掲)リ6-(1)-イ	E		OB, OGIによる情報発信については今後検討。	総合企画局 大学コンソーシアム京都
			②	留学生や留学生OB・OGネットワークの活用		(再掲)推2-(2)-④	B	フェイスブックを活用した日本語・英語による情報発信の実施した。	引き続き、フェイスブックを活用した日本語・英語による情報発信を実施する。	総合企画局
	(3)	大学・市民向け広報の充実	①	大学・学生向け広報の充実	出前トーク等による大学講義	市民の身近な場所に直接出向いて市政についての説明を行い、市政に関する理解を深めていただくとともに、これからのまちづくりについて共に考えるきっかけを作ることを目的に市政出前トークを実施しており、大学の講義でも活用されている。	B	大学・学生を対象とした出前トーク:34件 その他大学政策担当で出講した案件:4件	引き続き実施する。	総合企画局
			②	市民向け広報の充実		(再掲)推4-(3)-②	B	大学の地域貢献や地域と大学との協働による事例を紹介した。 91事例	キャンパスプラザ京都の指定管理業務に移管し、引き続き事例を紹介していく。	総合企画局